

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田村匡雄君) 二異議なしと認めます。 予て議案オ四十五号は原案どおり同意することに決定いたしました。

議長(田村匡雄君) 日程オ六議案オ四十五号福生町監査委員の選任同意についで議題に供します。 事務局として議案木の期議をいたさせます。

(青山議事係長朗読)省略

議長(田村匡雄君) 理事者から提案理由の説明をお願いします。

(議長(田村常太郎君登壇))

議長(田村常太郎君) お評をいたさせていただきます。 議案オ四十五号福生町監査委員の選任同意についで申しあげます。

この度村野喜平氏が任期となるわけでございますが、村野さんは経歴書にもござります。 予てお認めをしまして、私も常日頃佩服してある方でございます。 監査委員といたしまして今許に極めて精通されておりますし、徹底する頭脳の持ち主でございます。 予て監査に好しましては極めてご賛成になつて



ござります。 人の言に左右されないだけの堅い意志をお持ちの方でございます。 最も適任と存するものでござります。 予てよくご審議をいただきます。 予て同意賜りますようお願いいたします。

議長(田村匡雄君) 二異議なしと認めます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田村匡雄君) 二異議なしと認めます。 予て議案オ四十五号は原案どおり同意することに決定いたしました。

議長(田村匡雄君) 日程オ七議案オ四十六号福生町教育委員会委員の任命同意についで議題に供します。 事務局として議案木の期議をいたさせます。

(青山議事係長朗読)省略

議長(田村匡雄君) 二異議なしと認めます。 予て議案オ四十五号は原案どおり同意することに決定いたしました。

議長(田村匡雄君) 日程オ八議案オ四十七号福生町教育委員会委員の任命同意についで議題に供します。 事務局として議案木の期議をいたさせます。

(青山議事係長朗読)省略

議長(田村匡雄君) 理事者より提案理由の説明を述べます。
(所長 石川常太郎君登壇)

所長(石川常太郎君) 議案第四十六号福生町教育委員会委員の任命同意について申しあげます。 予ダケ々任期があるものでございすすが九月三十日をもちまして用教育委員さんが任期に届るわけでございます。 九月中旬にこれのみをもつて議会というところも俾められすので本日この同意をいたさ下さく提出した次第でございます。 もちろん教育委員さんの堅いご辞意にするものでございす。 教育委員の任命につきましてはすまじい中学校在用校としておりまして、来年度におきかね川にオミの学校の建設予定もございすので従来の学区という考え方を改めまして福生全体から選定すべきであるという根本の考え方に立つたのでございす。 すが、資格として下しおしてはもちろん教育委員でございすので人格が高潔で高い次元から世論に受け入れられ下すに公平に物事の判断ができる人というところで之を定め下すのでございす。 其の知れる範囲におきましては議員の青藤博代がこの趣旨に

最も適しているであろうと判断し、ここに青藤博代を任命すべくご同意をお願いしたわけでございます。 偶然にもオミ学校の区域に属したというのでございまして、あくまでも福生町全域から之を最も適任と認めここに提案申しあげた次第でございます。 いますのでよろしくご審議のほどをお願い申しあげます。

議長(田村匡雄君) これより質疑を行ないます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田村匡雄君) これにて質疑を終了いたします。

おばかりいたします。 議案第四十六号は原案どおり同意することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田村匡雄君) ご異議なしと認めます。 よろ議案第四十六号は原案どおり同意することにしたし下す。

議長(田村匡雄君) 日程第八議案第四十七号契約締結につき議長に依ります。 事務局として議案の朗読をいたさせます。
(青山謙平係長朗読省略)

・議長（田村匡雄君） 理事長から提案理由の説明を求めます。

（助役森田幸造君登壇）

・助役（森田幸造君） お許しをいただきまして議長より四十七号契約締結につきまして説明申し上げたいと存じます。

本築は財主福生や四小學校防音改築工事の工事でございます。昨手、四小年度に引き続きまして防音改築をいたし下りて存じます。して入れをいたし下りたものでござります。去る二十三日防犯庁の係官等も立ち合ひのうえ別紙に掲げております。下和建設株式会社以下九社をもちまして入れを行ったものでござります。三回とも落札者がござります。オミ目最低価格を入れたし。田村建設株式会社と随意契約にありまして契約締結をいたしたくご同意をお願いいたしたく提案申しあげた次第でございます。契約規模をいたししまして鉄筋コンクリート三階建て九百十四、六四六平米、契約金額は三千三百六十二万円、工期は昭和四十二年八月二十五日から昭和四十二年三月三十日まででございます。工期完了を期しましての全の措置を構じて、工事の



完了を期して契約いたしたと存する次第でございます。

よろしくご審議のほどをお願い申し上げます。

・議長（田村匡雄君） 二回あり質疑を行ないます。

・九番（大野行天君） 理事長にお伺いいたします。落札者に対していろいろ世評の中で大和町から指名について先日取り消しを受けた、予に社内の者には外部に内容について公開するほりけ存じとらうござりますが、おありするがやうなことをご存知のうござります。理事は最終的責任を理事長側でとっていくという方々でこの契約を結ぶのかその点を伺いたいと思ひます。

・議長（田村常太郎君） 自席から失礼いたします。下下りすの質問

につきまして一般的に内容は存じませんが、本日ご同意をいただきますと下下りに契約をいたすわけでございますが、それとにもに所の規則に従いまして厳重に遺憾のないよう完了を期したいと思ひます。間違のないよう私が責任をもち、所々に迷惑をかけないよういたします。つもりでございます。

（「了解」と呼ぶ者あり）

議長(田村匡雄君) 二に於て質疑を終結いたしました。

おほかりにいたします。議案才四十七号は余案とあり同意する
ことに二案譲ありませんか。

(「二案譲なし」と呼ぶ者あり)

議長(田村匡雄君) 二案譲なしと認めます。おそ議案才四十七号
は余案とあり同意することに決定いたしました。

議長(田村匡雄君) ニニで暫時休憩いたします。

午後九時五十八分 休憩

午後十時三十三分 開議

議長(田村匡雄君) 休憩前に引き続き議事会議を開きます。

議長(田村匡雄君) 日程才九議案才四十八号昭和四十二年度福生
会一般会計歳入歳出決算認定につきを議題に供します。

朗読を省略した下りに理事者から提案理由の説明を求めます。

(収入役秋山誠一君登壇)

収入役(秋山誠一君) 二指名がおりちての昭和四十二年度一般会計
決算に關しての説明申しあげたいと存じます。

大要附属書類が多くついておりますが二頁から八頁に至る関
係につきずば予算、決算、負債等のいろいろの角度からの説明
表にしております。それから十三頁に財産に關する調書がな
っており、十三頁には基金についての報告がしております。

最後の十七頁につくは四十二年度中の大きな事業で、起債や補助
金等の関係がのっております。九頁をお開き願います。この九頁
から十三頁に至る関係のものがいめゆる認定をいただかなければ
ならない決算書の全体でございます。それでは決算書につきま
す二説明を申しあげます。

昭和四十二年一般会計歳入歳出決算、歳入二億一千六百三十一千
四百四十三円、歳出二億五千五百九十二千五百三十四円、歳入歳
出差引当金三千十一千七百九十九円という数字に
なっております。すなわち歳入から申しあげます。款項につく申しあげ
ますと、最初に地税でございますが、予算現額二億二千四百四十六
千五百円、認定額が二億三千四百七十四千六百三十五円、この内収
入にたしちて金額が二億三千四百九十九千六百六十五円でございます。

収入とし、五十九万七千三百四十三円が入っております。
これは所の工費を貸し付け、工費代その他でございます。売却収入
の三百一十三万七千六百二十四円のうち、そのうち三十三万五千円は
校の廃材とつた古い校舎の売却代金がこの内、三百五十万円のほ
ど入っております。それで予算との比較におきまして、一千七百七十
六万六千三百七十六円というものが予算より減収にしております
すが、赤字予算を組む時に、実際にば入る来ないのですね、が、この収
入のバランスを取るために、工費売却代金ということで、千七百七十万
ほど計上されておつたわけでございます。これは実際にば入る
二倍のわけですから、当然減となるわけでございます。つぎが、
附金で五十一万一千円、これは全額七ヶ翠りの時の集附金ござ
います。つぎが、繰入金で三百万円、これはと畜場会計から一
般会計に繰入れ、その一部を一般会計に繰入れ、金額でございます
をあげており、その一部を一般会計に繰入れ、金額でございます
下。つぎが、繰越金でございますが、お年度が赤字でございます
したので、繰越金があるはずが、はい、でございますが、繰越明許

費におき、基礎周辺排水路工事の一部を四十一年度に繰り越した関
係があり、その下のその他の所買掛金が三十七万五千八百十九円というこ
とにしております。これは予算上の問題であり、その繰上利用金を
これだけ増額いたしました。と、現実的では四十一年の複利計算というこ
とにしております。これは主として予算上の問題として調整した
ものでござります。従いまして、その中にこの金額を入れ、歳出のオドメ
に付け加へば、やはりつじつまが合はぬ関係で、両方に同じ金額を入れ
て調整してあるわけでございます。これは決算としての答には関係
がはいりません。予算が予算上、実質予算と形式予算をミミ
調整いたしました。予算が実質予算にばなすというのと、そのた
めに繰越金という科目がつかい、その中にこの金額を、お年度
から繰越して、その歳出のオドメは繰上利用金の中にこれを加えて
あるわけでございます。つぎの諸収入でございますが、千四百六十万
三千五百円、四項目に分けておりますが、お年度に、これを
申しあげたいと存じます。貸付金元利収入で百万円、これは
はい、事業資金の関係でございますが、年度初めに百万円を支

町議

費用等でございます。四十一年度には、衆議院議員、農業委員の選挙等がございます。手元本年度にござります。行方めくすした御知事、町議会議員の選挙も一部の中より支出されております。統計調査費につきましては、百二十百十五円でございます。手元各種の統計をいたして、手元費用でございます。監査委員会の費用は、お七千七百七十円でございます。つきに民生費で二千六百四十円七千五百十五円の支出とござります。社会福祉費、児童福祉費、災害救助費の三つに分けております。社会福祉費が千七百五十二円三千三百三十九円、これは民生委員、会関係の費用その他社会福祉関係の費用でございます。この内、解金金がありまして、国保会計に二百万円、貸屋会計に三十万円と繰出してあります。それから国民年金の印紙代等も、お七千五百五十三円六百七十九円、これは保育園の費用でございます。これについては、経費と収入の関係が比較できるように、列表が、お手もとに配布され

町議

てあります。参考にしていただき、と思っております。災害救助費は、災害を受けた時の見舞金でございます。これはいわゆる、つきに、民生費五千五百三十三円七千九百十一円、保健衛生費と清掃費にわけられております。保健衛生費七百七十三円七千五百一十一円、予防接種等に要する費用、あるいは消毒に要する費用でございます。下下、火葬場関係、伝染病院関係の費用が、この中より出ております。つきに、清掃費の五千五百一十三円二十五円、これは相当大きな数字でございます。手元、民生費、じん介関係の費用でございます。首都美化運動の費用が、お七千六百七十九円、この関係につきまして、お別表にありまして、参考にご覧願いたいと思っております。つきに、農林水産業費で、農業費といたしまして、五百九十九円四百三十三円、お七千六百七十九円、これは農業委員会の費用と、農業振興に関する補助等、費用でございます。つきに、商工費四百八十七円六百七十九円、これは商工振興に関する補助、それから観光と申しまして、お七千九百七十九円、これは賞用等が、お七千六百七十九円、つきに、土木費、お七千六百七十九円、これは、道路、河川、橋りょう費、失業対策、農業費

都市計画費、住宅費の四つにわけられております。

道路関係の費用で二千五百四十二万三千五百十一円、これは一般道路の補修であるとか道路の補修費、特に防犯道路の整備について五百十号線、四百九十五号線の整備費が含まれております。失業対策事業費として三十三万八千九百九十九円、これは主としてオニ中学校のプールの建設が大きなものでございます。その他道路の補修とか舗装をやっております。つぎが都市計画費で一億二千九百九十九万三千六百六十六円、この内一番大きなものは三十三万八千九百九十九円、これはオニ中学校の基地周辺排水路工事の費用が入っており、また中津地区排水路と俗にいっておりますが、単独で起債を建てたりして排水路の関係、それから二、三の御路田の買収費、家屋の移転補償等の費用でござります。この中から区画整理会計のオニ三百八十四万七千七百七十七円、つぎが住宅費の二十九万四千三百三十九円、これは防犯住宅の維持管理の費用でござります。つぎが消防費で九百六十六万五千三百三十七円、これは一般の消防費の他に夜間の常備消防費が入っております。さらに消防自動車を一台中購入



しております。また防火貯水槽を二基造っております。それから費用の合計でござります。つぎが教育費でござります。これは一億五千六百四十四万五千九百八十八円という非常に大きな数字にしております。これは、総体で約四割近くにしております。教育総務費に占めるのは五十七万五千九百九十二円、これは教育委員会等の費用でござります。つぎが中学校費で一億一千七百三十三万九千四百四十四円、これは小学校の一般的に教育費の他にオニ小学校、オニ三小学校の防音工事と給食関係の費用が支出されております。中学校費で五千九百三十三万三千四百四十四円、これもやはり中学校の一般的に教育費の他にオニ中学校の防音工事の費用が支出されております。

つぎが社会教育費でござります。二百六十二万九千九百八十八円、これは一般的に社会教育費で青少年問題等の費用が含まれております。つぎに公債費に参ります。九百七十七万二千六百九十七円、これは、これは起債の元金や利子を返す関係が大部分でござります。一時借入金の利子は極く少くしております。予備費の支出はござりませんので、つぎの繰上り資金におきまして四千三百六十六